

教育長 様

校番 030 広島県立世羅 高等学校長  
( 全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る  
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校  
令和5年度 実施報告書**

**1 学校の教育目標等****(1) 教育目標**

「高志 挑戦」、「感謝 貢献」を掲げ、高い志を持ち果敢に挑戦し、支えに感謝し社会に貢献する生徒を育成する。

昨年度末に、各分掌で年度の評価を確認し、次年度に向けての課題を明らかにしていった。そこから今年度の行動計画・評価指標・目標値を定める中で、新たに策定した教育目標の確認を行った。その後、校務運営会議、職員会議を通じて全職員で共有化を図った。

**(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力**

「なぜ?を考え抜く生徒、自己を律し、他を巻き込むことのできる生徒、世羅を思い、世羅の未来を創ろうとする生徒」が育てたい生徒像である。

世羅高校生に付けたい資質・能力は、教職員全体で世羅高校の課題を共有し、現状を分析した上で、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の資質・能力の3つの柱を整理し、それぞれ「つなげる」、「説明する」、「批判する」、「協働する」、「学び続ける」のキーワードでまとめ、求める力を「活用力」、「論理的思考力」、「批判的思考力」、「コミュニケーション力」、「共同参画」、「社会的貢献」、「自己理解」、「他者理解」とした。その上で、学校全体の学年ごとの到達目標を言語化し、それを各教科・学科等に落とし込んでいる。年度末に、各教科の教科経営計画の整理と次年度の経営計画策定を並行して検討し、教科主任会議を通じて共有化を図っている。生徒・保護者には各教科のシラバスとともに内容を共有している。

**(3) 学科等の特色**

農業経営科は地域営農類型と六次産業類型の2類型を展開し、地域の主幹産業である農業を通じて、地域に貢献できる生徒を育成している。生活福祉科は、生活経営類型と福祉類型の2類型を展開し、幅広い「生活」に関する知識と技能を身に付け、豊かな生活と地域に貢献できる人材を育成している。普通科は、将来活用できる幅広い教養を身に付け、それぞれの進路に則した高い学力を醸成している。また、3学科合同で実施する総合的な探究の時間を通じて、授業で学んだ内容を地域・社会の諸事情とつなげて考え、高い問題意識を持ち、世羅町に対して具体的な街づくりの提言を行うことで、地域社会に貢献できる生徒を育成している。

**2 研究の概要****(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標**

農業経営科で培ってきた地域資源を生かした地域の課題解決に向けた専門性の高い課題研究について、作成している「世羅高生に付けたい資質・能力」への到達を測るルーブリックを作成し、生徒の学習状況を適切に評価する。また、そのルーブリックによる評価が学校のすべての教育活動に汎用的に活用されるよう工夫した。3学科併設の利点を生かし、3学科が協働できる教育課程の実現について検討し、進めた。

## (2) 1年後の目指す学校の姿

専門学科が取り組んできた、地域資源を生かした地域の課題解決に向けた専門性の高い課題研究の成果と、普通科の広範な学習の成果を互いに享受し協働することで、世羅高校から地域への発信力を高めていく。また、すべての生徒が、世羅を自らの探究フィールドとして活動することで、将来的に世羅を思い、世羅の未来を創ろうとする、地域社会のあらゆる分野においてリーダーとなれる生徒が育成される。

## (3) 令和5年度の目標

### ア アウトプット（活動指標）

- ・学校として育成を目指す資質・能力に係るルーブリックを、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。
- ・農業経営科の課題研究の評価について、「世羅高生に付けたい資質・能力」を測るルーブリックを生活福祉科、普通科とも関連付けて作成し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。
- ・学科を横断した教育課程が検討され、実施されている。

### イ アウトカム（成果目標）

- ・授業評価アンケートの総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」において、育てたい生徒像に係る項目で最高評価が70%以上になっている。

項目1 私はこの授業で、自分を取り巻く事象に対して、興味・関心を高めることができた。

項目2 私はこの授業で、自ら思考したり、考えを発表したり、他者の考えを共有したりすることができた。

項目3 私は授業で学んだ内容を地域・社会の諸事象とつなげて考えることができた。

- ・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」受講者の世羅高生に付けたい資質・能力の自己評価レベルが、学年末に上がった生徒の割合が65%以上になっている。

## (4) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

### ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

普通科 生活福祉科 農業経営科 総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」

### イ カリキュラム開発の概要

- ・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」の評価指標を整理する。
- ・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」の授業内容の共有への取組を進める。
- ・次年度に向けて、教育課程運用上の課題の整理と解決に向けて取組む。

### ウ 校内体制

- ・教科主任会議で報告、検討する内容を明示し、それを各教科会議において協議する。その協議した内容を次の教科主任会で報告する形式を継続する。また、各教科会から出された課題を研修の内容やテーマに活かし、カリキュラム開発を進める。
- ・3学科共有の総合的な探究の時間の授業の年間計画、指導計画・単元テンプレートを作成し、具体的な運用ができるように提案する。

## (5) 学習評価

- ・授業評価アンケートについて

1学期末に行う第1回授業評価アンケートによる生徒の自己の学習状況及び授業への評価から、教科ごとに改善に取り組む課題を明らかにし、学習や指導の改善に取り組む。その結果を、第2回授業評価アンケートで検証し、次年度に向けての教科の課題と次年度の教科ごとの「世羅高生に付けたい資質・能力」の内容を見直す資料とする。

・民間テストについて

学校（学年）の思考の強みと弱みを把握し、特に弱みであった批判的思考力を伸長するための指導を共有していく。結果を活用し、注目すべき生徒について、世羅高校が各教科で付けたい資質・能力の育成状況を継続して確認する。（アンケート調査）

(6) カリキュラム評価

- ・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」受講者の世羅高生に付けたい資質・能力の自己評価レベルが、学年末に上がった生徒の割合が65%以上になっている。
- ・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」において、育てたい生徒像に係る項目で最高評価が70%以上になっている。

項目1 私はこの授業で、自分を取り巻く事象に対して、興味・関心を高めることができた。

項目2 私はこの授業で、自ら思考したり、考えを発表したり、他者の考えを共有したりすることができた。

項目3 私は授業で学んだ内容を地域・社会の諸事象とつなげて考えることができた。

3 令和5年度の成果及び課題

(1) 成果

・マスターループリックの作成

本年度より、教育目標を「高志 挑戦」、「感謝 貢献」として掲げ、高い志を持ち果敢に挑戦し、支えに感謝し社会に貢献する生徒を育成すると変更し、マスターループリックも地域との連携をより意識した内容に変更した。

・総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」の評価指標を整理及び、授業内容の共有への取組を進める。

総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」の授業内容や評価指標について、授業担当者だけでなく、全教職員で研修を行い、内容を確認した。これまでの普通科が行ってきた総合的な探究の時間は、課題について情報収集して分析・提案をするまでの学びであった。今年度から専門学科と一緒に行うことで、実践し、活動を見直し、ブラッシュアップすることで、1年間に何度も実践し、経験を通して学びを深めることを理解していただき、授業に臨んでもらった。

また、授業を受ける生徒に対しても全体オリエンテーションを行い、目指す生徒像を説明し、何を学ぶかをしっかり考えさせる時間をとった。また、世羅町からの支援により、ソフトバンク AI チャレンジ及びLINE ヤフー IT 人材育成プログラムを導入した。AI チャレンジとは、これからの社会で求められる AI を使いこなせる「AI 活用人材」を探究学習を通じて育成する実践的な教育プログラムであり、LINE ヤフー IT 人材育成プログラムとは、LINE ヤフーの社員が講師となり、IT の活用を目的としたアクティブ・ラーニング主体の教育プログラムとしてインターネットを活用して地場産品を販売する方法を生徒に実習で指導、実際に販売するところまでをカリキュラムとしている。

そして、10 の講座（防犯・防災、保育・教育、福祉、広報・地域商品 PR、SNS・AI、観光、食・農業、デジタル、歴史・地域資源活用、スポーツ）を設けた。生徒のグループ分けについては、生徒1人1人の希望講座だけでなく、進路希望等の情報を共有

し、もし、総合型推薦で受験を希望した時に生徒が自信をもって語れる内容の講座となるよう意識した。



各グループの実践成果の一部を紹介する。

保育・教育グループは、校舎内を活用した親子体験教室の実施を行った。子どもが1日遊べる体験活動の提供として、お菓子作り体験、しっぽとりゲーム、大きな人生ゲーム、絵本の読み聞かせを行った。食事の提供としては、農業経営科で栽培した野菜を活用した大根ドライカレー、白菜スープを180食準備提供した。保護者には、子育てを高校生にまかせてリラックスできる場の提供として、世羅茶、コーヒー、紅茶とカップケーキの喫茶室を運営した。保育・教育グループが計画したが、全校生徒にボランティアを呼びかけ総勢40名で運営を行い、参加者から大好評を得ることができた。この親子体験教室も1回だけの運営ではなく、2回実施し、前回の反省を踏まえより良い内容になるよう生徒が工夫を凝らした。

防犯・防災グループは、特殊詐欺防犯教室を世羅町と共同開催し、ソフトバンク株式会社の協力により、人型ロボットのペッパーのプログラミングを行い、世羅警察署の監修のもと実施した。21名の方が参加していただき、特殊詐欺防止について生徒とペッパーによる劇形式で説明し、警察が作成した防犯アプリ「オトモポリス」をダウンロードするお手伝いをした。



食・農業グループは、廃棄処分される梨を活用した新商品開発として「梨なんで酢」を製造販売した。世羅中学校3年生と一緒に開発を行い、世羅高校の食品製造棟で梨の果汁を搾り、尾道の造酢会社に持ち込み醸造、瓶詰めを行った。自分たちができること、できないことを明確にし、誰に協力を仰ぎ、商品化できるか実践した。また、東京大丸デパートで行われた全国農業高校収穫祭で販売した。



地域商品PRグループは、LINEヤフーIT人材育成プログラムを活用し、インターネット通販「Yahoo!ショッピング」で世羅町観光協会と共同でネットストアを開店し、特産品を販売した。また、この取組は、全国でLINEヤフーIT人材育成プログラムに参加した全国の高校で行う合同成果発表会にて、優勝することができた。



令和6年2月2日、せら文化センターにて最終報告会を開催し、各グループの

まとめ発表を行った。各グループの活動において協力していただいた地域の方をお招きし、取組成果を見ていただくとともに、各グループの実践活動を知っていただける機会となった。来場者のアンケートコメントには、「どのグループも世羅町がより良くなるための活動を実践されており感動した」や「協力したチーム以外のことを知ることができて良かった。今後も協力していきたい」等、肯定的な意見を多数いただくことができた。

また、国立教育政策研究所 教育課程調査官 長田徹様、広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授永田忠道様にも指導講評をいただき、各グループとも地域との連携について世羅高校ならではの取組であるとともに、実践することで内容も深まっていたと高評価をいただくことができた。

#### ・カリキュラム評価

総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」受講者の世羅高生に付けたい資質・能力の自己評価レベルが、学年末に上がった生徒の割合が65%以上になっているについては、項目が1つ以上上がった生徒は91.6%であり、目標を上回った。

総合的な探究の時間「SERA探究Ⅱ」において、育てたい生徒像に係る項目で最高評価が70%以上になっている。

項目1 私はこの授業で、自分を取り巻く事象に対して、興味・関心を高めることができた。

項目2 私はこの授業で、自ら思考したり、考えを発表したり、他者の考えを共有したりすることができた。

項目3 私は授業で学んだ内容を地域・社会の諸事象とつなげて考えることができた。

項目1では64.1%と、目標に到達することはできなかったが、肯定的な評価は、96.2%であった。項目2では64.1%と、目標に到達することはできなかったが、肯定的な評価は、94.9%であった。項目3では65.3%と、目標に到達することはできなかったが、肯定的な評価は96.2%であった。

#### ・学びみらいPASS研修

民間テストを活用した評価方法の一つとして「学びみらいPASS」を県の指定を受け実施した。変化の時代には、単なる教科学力だけでなく、主体的に「学び続ける力」が求められる。「学びみらいPASS」では、教科学力に、「リテラシー」「コンピテンシー」を加えた学力の3要素や、学力育成の下支えとなる「興味・関心」「学力生活パターン」を測定し、生徒の「学び続ける力」を測定する。問題解決へ向かう姿勢・態度を通じて生徒の強みやタイプを可視化する「学びみらいPASS」の問題を作成し結果分析している河合塾から講師を招き、世羅高校で実施したデータから、本校生徒の傾向や強みを共有した。また、担任においては個別評価をどのように活用するか助言を受けた。

#### (2) 課題

授業評価アンケートの結果では最高評価である4の生徒の割合が70%となることを目標としたが、3項目とも目標を下回った。目標の70%に届かなかったことを意識して、総合的な探究の時間を学校全体で取り組み、それ以外の授業も、生徒たちの身近な事象への関連や影響をできるだけ意識できるような問いの設定や、単元テンプレートでの本質的な問いの設定、パフォーマンス課題等を工夫していく必要がある。

### 4 令和6年度の目標及び取組内容

#### (1) 令和6年度の目標

##### ア アウトプット（活動指標）

・マスタールーブリックを活用して、教員による評価及び生徒自身による自己評価が行われ、生徒の学習状況の評価と、教科で付けたい資質・能力のルーブリックとの整理がなされ、適切な場面で活用し、評価されている。

##### イ アウトカム（成果目標）

・マスタールーブリックを活用したアンケートで、到達レベルが4月時点から学年末までに上がったと考える2

年生生徒の割合が70%以上となる。

- ・授業評価アンケートで、「この授業で学んだ内容を地域・社会の諸事象とつなげて考えることができた」の最高評価の生徒の割合が70%以上となる。

(2) 令和6年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラム開発の概要

- ・学科を横断した総合的な探究の時間の教育課程を実施し、評価方法についてさらに検討する。
- ・学科を横断した総合的な探究の時間において、より実践的な活動を行うため、地域連携を深め、生徒の活動が活発になるよう各教科で工夫することと、良い取組については全教職員で共有することを徹底する。

イ 校内体制

- ・教科主任会議で報告、検討する内容を明示し、それを各教科会議において協議する。その協議した内容を次の教科主任会で報告する形式を継続する。また、各教科会から出された課題を研修の内容やテーマに活かし、「総合的な探究の時間」を核としたカリキュラム開発を進める。